

施策番号 3-3-1	施策名 地域で支え合う福祉社会の実現	基本目標	誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり			
		政策名	住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実			
	主管課	健康福祉課	課長名	森 真由美	内線	146
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果	
年代や世代、性別、障がいの有無に関わらず、地域全体がお互いに支え合える体制づくりをすすめます。		町民	住民同士で支え合う体制をつくる				住み慣れた地域で安心した生活を送ることができる	
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標
① ボランティア活動に参加した町民の割合	住民意識調査	%	32.3	30.5	27.6	24.7	26.8	35.0
② たすけあい活動参加町内会(市街地)・行政区(農村部)数	社会福祉協議会調べ	件	51	52	52	48	50	60
③ 住んでいる地域は、住民同士支え合う体制ができていると思う町民の割合	住民意識調査	%	80.6	57.1	58.1	60.7	59.1	80.0
④								
成果指標設定の考え方	① ボランティア活動への参加が、住民同志のコミュニケーションづくりに繋がることから、成果指標に設定した。 ② たすけあい活動への参加が、町内会活動など住民同志の支え合いに繋がることから、成果指標に設定した。 ③ 地域住民の支え合いに関する意識を客観的に表す指標として、住民意識調査を成果指標に設定した。 各成果指標とも策定時の数値を上回ることを目指し、目標値を設定した。 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更)							

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	25,513	35,577	38,028	36,388	46,903
人工数(業務量)	1.3088	1.5624	1.0087	0.9123	0.9162

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価(前年度との比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①はボランティアセンター登録団体が微増したことによると思われる。②及び③は微減となった。→コロナ禍の中取り組みは継続したが数値的には全体として変わらないと評価した。
②第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	成果指標①は、計画期間中ボランティアセンター登録団体数は減少から増加となったことの影響が考えられる。(2017年度10→2022年度14) 成果指標②は微減となった。地域福祉を担う中核的な団体である社会福祉協議会の身近な地域での支え合い活動はますます重要となると考えられる。 成果指標③は、目標値とは大きく乖離したが、数値的には計画期間中ほぼ横ばいで推移した。 以上、3つの指標から、目標は達成できなかったと評価する。
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	ボランティアセンター運営支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	社会福祉協議会活動支援事業
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「社会福祉協議会活動支援事業」→ 第5期地域福祉計画(R5.3月策定)において社会福祉協議会を地域福祉を担う中核的な団体として明確化。また、法人運営経費や地域福祉事業経費の補助により地域福祉推進の安定化を図ってきた。 ・「ボランティアセンター運営支援事業」→ 日常のボランティア活動及び災害時における本町のボランティア活動の推進役として、町内関係機関とのネットワークと、得意分野で活動できる多様な場の開拓や、高齢者の社会貢献・社会参加の促進を担っており、その活動を支援してきた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	ボランティアセンターでは、コロナ禍の影響を受けながらもボランティア活動や周知普及活動、講座などの地域交流活動に継続して取り組み、一定程度の維持がされた。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○

A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
 D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化、核家族化が進む中、地域社会における関係の希薄化や孤立化などの社会情勢が大きな課題となっている。 <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉を推進する中核的な団体である芽室町社会福祉協議会やボランティアセンターの活動が重要となっている。 ・「向こう三軒両隣」の考え方による、支え合いの意識の醸成、再認識に重点を置いた活動が求められる。 ・地域活動の担い手の育成や活動団体支援が急務である。
この施策に対して住民・審議会・議会からのどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<ul style="list-style-type: none"> ①社会福祉協議会への委託事業について等連携体制についての意見→情報共有・連携の強化 ②民生委員児童委員の確保についての意見→活動負担軽減の工夫や地道な協力依頼の継続 ③地域共生社会実現のための取組み及び重層的支援体制の構築について、議会から意見→第5期地域福祉計画に基づき体制構築に着手している。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ●課題① 地域福祉を推進する体制づくり <ul style="list-style-type: none"> ・本町における地域福祉を推進する中核的な団体である芽室町社会福祉協議会が核となり、団体、事業者など幅広い地域資源が、それぞれの特性を十分発揮できるよう役割を明確にし、連携できる体制の構築が必要であり、社会福祉協議会の積極的な活動を支援していくことが必要。 ●課題② 地域における支え合い活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・住民同士の支え合いの意識の醸成と、地域活動の担い手となる人材の育成や活動団体支援が必要である。 ●課題③ 民生委員児童委員の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員の担い手確保が継続して大きな課題である。欠員地区の早期解消及び地域や人材育成に努める。
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に「変わらない又は維持した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	少子高齢化、地域社会の希薄化など課題を認識して取組を行っているが、変化が見られないことから「変わらない又は維持した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員のなりて不足について、負担軽減が図られていることや学習機会が充実していることを広く周知してほしい。 ・助け合い活動を行っている地域のことを、町民に広く周知してほしい。そして、他の地域でも取り入れてほしい。 ・行政として「助け合い」に関して取り組むことで、町全体の空気感となる。子どもの頃から「助け合い」の意識が持てるように働きかけてほしい。 ・成果指標③について、行政と関わる町民を増やすことで、地域の支え合いの必要性を理解していくことに繋がる。 ・低所得者に対してエアコン設置補助を検討してほしい。 	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					